市民公開講座 -3

北海道大学 COI『食と健康の達人』：母子に一番やさしいまち

北海道大学 COI 拠点長,
株式会社日立製作所 シニアプロジェクトマネージャー
吉野正則
Masanori Yoshino
Director, Hokkaido University Center of Innovation,
Hitachi Hokkaido University Laboratory

岩見沢市とつくる「母子に一番やさしいまち」の背景

少子化が喫緊の問題といわれて久しい．そのために“いま，私たちができることをすべてやろう”と岩見沢市と始めたのが 2015 年であり，市民，自治体，大学，企業と議論を重ねるなかで，まず取り組むことを，目の前にあるにも関わらずあまり知られていない課題に決めた．それは，“生まれたときの体重が 2,500 グラム未満で，体の小さい「低出生体重児」．その成長後には，生活習慣病，発達障害をはじめ，疾病リスクが高くなる”ことである．日本では，もちろん岩見沢市も，この低出生体重児の出生率が 10％程度まで上昇しており，このまま少子化に加え，低出生体重児が増え続ければ，医療費は膨れ上がり，地域経済発展の阻害要因となる．そして，それは社会の共感のコミュニティーも壊していくのは自明のことである．

この低出生体重児の最大の要因となるのが，妊婦の栄養不足だという．日本では飽食が叫ばれる一方で，実は若年女性の「痩せ志向」が栄養不足の起因となっており，低出生体重児に関する啓発，妊娠期の母子の栄養・生活改善ができないかと，岩見沢市とともに「母子・子育てにいちばんやさしいまち」を目指し，産学官の協創体制で取り組む世界に類をみない腸内環境と母子の健康の取り組みである「母子健康調査」を開始した

「母子健康調査」と岩見沢市の取り組み，そして今までの成果と今後

私たちの取り組みは，2 年間の準備期間のあと 2017 年から開始した．そして，2014 年には 11％だった低出生体重児を，2018 年には約 8％台へと下げてきている．

母子健康調査は，妊娠期から血液，便，食事の調査，出産時の臍帯血，子供の便，母乳をいただき，分析，アドバイスを返す仕組みである．市の病院，看護師，保健師さんが一体となって進めてくれている日常的な市の事業でもある．

私たちは，市民の方たちとともに，
母の腸内環境が子供にどんな影響を与えるのか？
どうしたら，母子の健康を守れるのか？
小さく生まれた子供も，支えられる社会はどういうものなのか？

を問い続けながら，

母子が，家族が，笑顔で幸せに暮らせるまちを一緒につくっていくことを，この講座を通じてみなさんと共有，議論させていただこうと考えています．